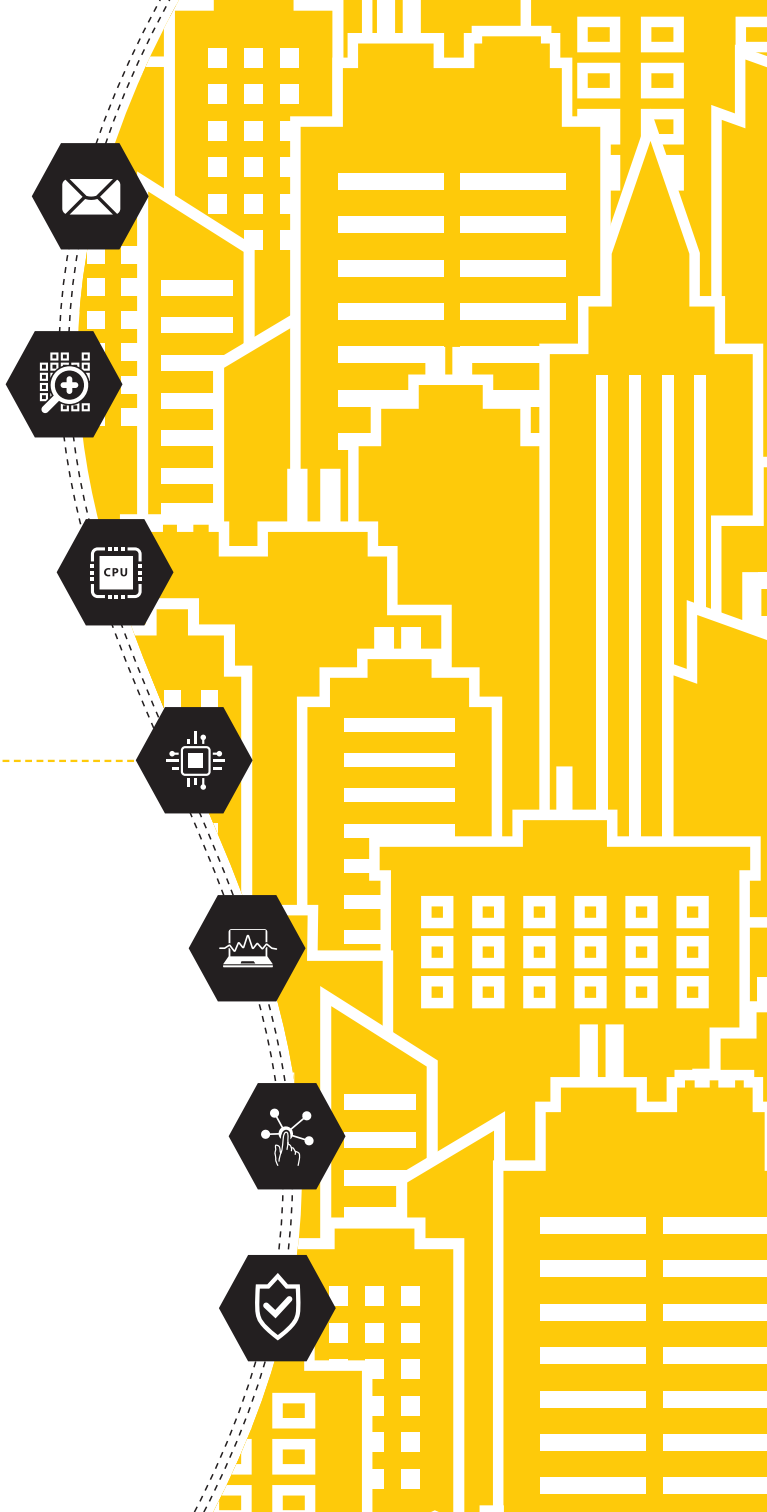
株主の皆様とテクマトリックスを
つなぐIRマガジン「**テクマティズム**」




# TECHMATISM

## 第35期 報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

**テクマトリックス株式会社**

TechM@trix

証券コード **3762**

# Our Business

## テクマトリックスの事業概要

テクマトリックスは、ITのスペシャリスト集団として、最新のIT技術を活用し、
企業のビジネスモデル変革と企業競争力の強化をサポートしています。
最先端の情報基盤技術のインテグレーションを提供する**「情報基盤事業」**と、
顧客の抱える問題領域における実践的なノウハウを実装したアプリケーションの提供を行う
**「アプリケーション・サービス事業」**の2事業によって成り立っています。

### アプリケーション・サービス事業

- 医療、CRM等の分野でクラウド事業を展開
- IoT時代の組み込みソフトウェア品質保証のためのテストツールの提供
- インターネットサービス、金融分野でのソリューション提供
- IT技術者の教育事業を展開

NOBORI
FastHelp5
FINCAD
PARASOFT

TechMatrix

### 情報基盤事業

- 最先端のネットワークセキュリティ・ストレージ製品の提供
- お客様の安全な情報基盤構築のために、設計・構築・保守に加え、24時間365日の運用監視サービスの提供

f5
paloalto NETWORKS
McAfee Together is power.
DELL EMC

## 身近なところで縁の下のチカラ持ち

情報セキュリティ
クラウドサービスを
安全・快適に

コンタクトセンター業務を
よりスムーズに

医用画像管理を
容易に安全に

交通機関の制御の
安全性向上

# 未来創造型企業として、新規事業の創出に向けた事業構造改革に邁進していきます。

代表取締役社長
**由利　孝**

## 当期（2019年3月期）を振り返って

当期（2019年3月期）は、経済大国間の貿易摩擦から中国経済が減速となる中、製造業を中心とする一部の輸出型企業の業績が下降局面に向かうなど、先行き不透明な状況となりました。国内では、政府主導の金融政策、財政出動の継続、東京オリンピック・パラリンピックに向けた経済効果等が景気を下支えしましたが、2019年10月に予定されている消費税増税に対する警戒感が高まっています。

当期は、2018年5月22日に持続可能な成長基盤の構築と、新規事業の創出による事業構造改革を目的に掲げた中期経営計画「GO BEYOND 3.0」を発表し、既存ビジネスのオーガニックな成長と、未来に向けた事業の種蒔きに注力してきました。「GO BEYOND 3.0」の初年度である当期において、業績面では、前期（2018年3月期）は上期がややスロースタートで下期に追い上げるという業績推移を辿りましたが、当期は上期から順調に受注を積み上げることができました。その結果、売上高、営業利益ともに計画値を上回り、全ての指標で過去最高の数字を達成しました。さらにベンチャー企業への出資やサービス化の加速に向けた基盤開発を行ったほか、これまで進めてきた研究開発が徐々に花開くなど、事業構造改革の序章に相応しいスタートを切ることができました。

これらの取り組みが評価され、当社は経済産業省が選定する「IT経営注目企業」に選定されたほか、JPX日経中小型株指数の構成銘柄に選出されました。

## 決算ハイライト

**当期業績のポイント**

- 順調に受注が積み上がり売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全ての指標において4期連続で過去最高を更新。
- 配当金は当期の業績の利益水準をふまえ、当初計画から2円引き上げて1株当たり25円（前期比5円増）を実施。

| | 2018年3月期（実績） | 2019年3月期（実績） | 前期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 23,512百万円 | 25,418百万円 | 8.1%増 |
| 営業利益 | 1,902百万円 | 2,418百万円 | 27.1%増 |
| 経常利益 | 2,054百万円 | 2,352百万円 | 14.5%増 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,308百万円 | 1,470百万円 | 12.4%増 |
| 1株当たり配当金 | 20 円 | 25 円 | 5円増 |

### 中期経営計画「GO BEYOND 3.0」での未来への種蒔き

あらゆるモノが相互接続され、ソフトウェアで制御される中、AI等の新しい技術が積極導入されるようになり、産業構造が劇的に変化し、各企業の事業構造もより一層の進化が求められるようになりました。中期経営計画「GO BEYOND 3.0」で掲げている新規事業の創出を目指した事業構造改革を着実に実行することにより、当社グループをこれらの社会ニーズに対応できるサービス指向のIT企業へ進化させていきます。そして、各年度で成果が見込めるものだけではなく、仮説に基づいた新サービスの創出に取り組み、顧客からのフィードバックを活かしサービス内容を進化させていきます。それらの中には、社会制度の改革や価値観の転換を提案するような長期的な取り組みも含まれます。

情報基盤事業では、セキュリティ関連の新規商材を増やすとともに、2019年7月から提供を開始する

「TechMatrix Premium Support powered by TRINITY」のサービス基盤開発に取り組みました。多層的な防御を行い、サイバーインシデント発生時の分析、判別、対応も全てワンストップでできる高度な統合型監視サービスを目指しています。

アプリケーション・サービス事業では、連結子会社NOBORIによる医療分野での新規事業の創出、CRM分野でのASEAN地域進出、ソフトウェア品質保証分野での急速に進む自動車のIT化に対応したソフトウェアテストツールの販売強化等に取り組みました。

NOBORIが提供している医療クラウドサービス「NOBORI PAL」では、既存サービスに加えて、株式会社東陽テクニカの「Clear Read XR-PAL」、合同会社医知悟の「医知悟PAL」、合同会社ミョーイの「骨密度解析」の3サービスの提供を開始しました。医療情報クラウドサービス「NOBORI」の契約施設数も順調に増加しているほか、B to Cサービスとして、患者様がご自身で医療情報等を管理できるサービスの準備を進めました。

成長著しいASEAN地域でのCRM事業の拡大を目的として、2018年4月にバンコク駐在員事務所を設立しました。今後はバンコク拠点にて現地対応力を強化しつつ、ASEAN地域で幅広く使われているCRMソリューションの提供を推進していく予定です。

自動車一台に組み込まれているソフトウェアプログラムのコード量が一億行を大きく超えるまでに複雑化し、ソフトウェアの品質向上、機能安全規格への対応が社会的な要請として高まっています。当社が提供するテストツールや開発支援ツールは自動車関連各社から注目され、順調に受注拡大を続けています。

さらに当期には、M&Aを含む事業運営体制の多様化を目的とした第三者割当による新株予約権の発行により、資金調達を行いました。今後も、これら資金を有効に活用していきます。

今期（2020年3月期）は、「GO BEYOND 3.0」の2年目にあたります。製造業を中心とした景気の減速が懸念されますが、既存ビジネスのオーガニックな成長による数値目標の達成を目指しつつ、新規事業の創出・将来の成長基盤への投資を進めていきます。

## 株主の皆様へ

当期の期末配当は、配当性向20％以上を基本とする還元方針に基づき、期初予想から1株当たり2円引き上げた、前期比5円増配の25円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きテクマトリックスへのご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

## 1 インターネットセキュリティの必要性と次世代ファイアウォール

インターネット(以下「ネット」という)の利用が一般的となり、ニュースを読んだり買い物としたりという私たちの日常の行動はネット抜きでは成り立たなくなりつつあります。しかし、ネット上には「架空請求」「偽ショッピングモール」等たくさんの『怪しい』ものがあるのも事実です。特に、この度の元号改正や2020年の東京オリンピック・パラリンピック等の大きなイベントがあると、それに向けたくさんの『怪しい』

ものがネットに上がってきます。

企業活動においても、ネットは必要不可欠なものになっています。従業員は取引や調べ物で様々なホームページの閲覧などネットを使って仕事をしています。ネットを使って情報を手に入れたときに、その情報の中に悪意のあるプログラム(マルウェア=『怪しい』もの)が仕込まれていることが多くあります。一旦、『怪しい』ものが社内に侵入すると、外部から操作され、データの不正取得や改ざん・破壊などを行うサイバー攻撃を仕掛けられる事態に発展します。

多くの企業に導入を頂いているPaloAlto Networks社の次世代ファイアウォールは、その情報の中に『怪しい』ものが仕込まれていないかをきちんとチェックしてくれる機能を持っていることが特長の一つです。従来のファイアウォールはポートと呼ばれる情報が出入りする通路を制御することで情報が通過する状況を管理し、通路の開閉を制御することでセキュリティを保っていました。しかし、今は許可された通路を通っていても、その情報に『怪しい』ものが紛れていることが多くなりました。次世代ファイアウォールは、通路を通る情報の挙動を監視し、行儀よく通路を利用する通信のみを許可することができます。

サイバーセキュリティ対策は、より高度化、巧妙化するサイバー攻撃の脅威とのイタチごっこでもあります。当社はその『怪しい』ものに対抗する最先端のサイバーセキュリティ製品やサービスをお届けしています。

## 2 大容量ストレージ製品の需要とDell EMC「アイシロン」

テレビが大画面になるほど1画素あたりの面積が大きくなり、画素の粗さが目立ってしまいます。高画質を大画面で楽しむために、フルハイビジョンの4倍も高精細である「4K対応テレビ」が販売されています。テレビ局や制作会社は高画質化により巨大化したデジタルデータ(番組・映画・3D映像・アニメーションなど)を、記憶・格納するためのストレージを必要とします。例えるなら、巨大なデータを格納するための『箱』のようなものです。

Dell EMC社製の「アイシロン」はテレビ局等を中心とするメディア・エンターテイメント企業に多く導入頂いています。

これまでは、データを格納する箱がいっぱいになると、新しい大きな箱を用意しその箱にデータを移しかえるか、新しく箱を増やす必要がありました。

それに対し、「アイシロン」は、入れ替えるのではなく、既存の箱をどんどん大きく拡張してストレージの容量を拡大することができます。

「アイシロン」の持つ拡張性により、ユーザー側の手間とコストの大幅な削減を提供しています。

## 事業戦略

クラウド関連事業の
戦略的・加速度的推進

セキュリティ&セイフティ
(安心と安全)の追求

## 新規事業創出に向けた取り組み

| | 事業戦略 | 取り組み |
|---|---|---|
| 1 | 事業運営体制の多様化 | ● 医療システム事業部が2018年4月1日より分社し、株式会社NOBORIとして独立。新しい形の資本・業務提携により新規事業を加速。<br>● エルピクセル株式会社の第三者割当増資を引き受け、同社への出資を実施。 |
| 2 | サービス化の加速 | ● リモートアクセス装置(BIG-IP APM)を利用した、独自のクラウドサービス「Trusted Gateway」をリリース。<br>● 次世代統合監視サービス『TechMatrix Premium Support powered by TRINITY』のサービス開発に着手。(2019年7月リリース予定)<br>● 脅威解析サービスの高度化に向けてセキュリティ研究所を設置。 |
| 3 | データの利活用 | ● 新規事業の創出、並びにデータ活用、AI等の最新技術や最新事例の研究を推進するため新規事業開発室を設置。<br>● AIによる医用画像診断支援システムの共同開発を、複数のAIベンチャー/医療機関と組んで推進中。 |
| 4 | BtoCへの参入 | ● 連結子会社「NOBORI」において、これまでに蓄積した画像データや技術を活かし、顧客である医療施設と連携した個人向け(患者向け)のPHR(Personal Health Record)サービスの開発を加速し、複数病院と実証実験を開始。 |
| 5 | 海外市場での事業を加速 | ● ASEANにおけるCRM事業拡大のため、タイ・バンコクに駐在員事務所を開設。 |
| 6 | 事業運営基盤の強化 | ● 次世代人材育成を目的とした組織の強化、人事制度の刷新に着手。<br>● スマートフォン・アプリの開発人材をBtoC領域で活用。<br>● 連結子会社「カサレアル」との協業により、ソフトウェア品質保証分野における顧客向けトレーニングを強化。 |
| 7 | M&A | ● 将来のM&Aに向けた資金調達を目的に、第三者割当による新株予約権の発行。(自己株式2,500,000株を充当) |

計数目標の進捗はP12をご覧ください。

## サイバー攻撃にワンストップで対応する統合的なサポート＆セキュリティサービス

TechMatrix Premium Support powered by TRINITY

巧妙化、高度化、そして益々悪質化するサイバー攻撃。マルウェアも増加する中で、多岐にわたるセキュリティ対策と運用の維持継続が大きな経営課題となってきました。そこで当社では、ゲートウェイ、エンドポイント、ネットワークフローの相関分析を含む多段階防御による網羅的な統合セキュリティ監視と機器運用によるワンストップサービス「TechMatrix Premium Support powered by TRINITY（TPS）」を、2019年7月より提供します。

当社では、これまで「TRINITYセキュリティ運用監視サービス」をはじめ、様々なセキュリティサービスを提供してきました。こうした中、従来の局所的なサポートのみならず、より高度なサポートサービスの提供に向けた基盤構築を検討するべく、情報基盤事業の大きなテーマとして、2018年後半から本サービスの開発をスタートすることになりました。

TPSでは、お客様のネットワークで発生する様々なセキュリティインシデントを「点」ではなく「面」で捉え、網羅的な統合セキュリティ監視サービスを提供します。さらに当社セキュリティ研究所の専任セキュリティアナリストが、独自開発した最先端の脅威シナリオに基づいた相関分析ツールによってセキュリティ被害への対応策を体系化し、サイバーセキュリティにおける脅威や異常を早期に検出します。そして、当社セキュリティ監視センターを基点に、最適かつ統合的な機器運用サービスとサポートサービスをワンストップで提供します。

包括的な脅威の検出と可視化 ＆ セキュリティ運用を最大限効率化し、未知のマルウェアに対するセキュリティ対策基盤の強化を実現します。

## 新しい医療のカタチを提案する NOBORIの取り組み

欧州では、2018年5月から実施されたGDPR（EU一般データ保護規則）で、個人データをコントロールする権利が整備されました。その中には、データポータビリティという、企業や組織体が保有する個人データを各個人に可読性のある形で返して、個人がデータを活用することが謳われています。

株式会社NOBORIが提供している医療クラウドサービス「NOBORI PAL」は、「Clear Read XR-PAL」、「医知悟PAL」、「骨密度解析」が追加され、契約施設数も順調に増加しました。今後も、「NOBORI PAL」の契約施設数を増やすとともに、NOBORIは、究極の個人データともいえる医療情報のデータポータビリティを目指した、新しい医療のカタチを追求しています。

NOBORIでは、提携医療機関から提供された画像や検査結果、薬などの医療情報をスマートフォンでいつでも閲覧できるアプリを開発しました。このアプリでは、画像検査や血液検査などの結果や投薬などの医療情報、通院の履歴や診察・検査の予約、診療順番などがスマートフォンで確認できる他、他の医療機関の医師はもちろん、家族との医療情報の共有や医師とのコミュニケーションに役立つ機能が搭載されています。

このアプリと「NOBORI PAL」を連動させた提携医療機関の試験的な運用の成果については、近いうちにプレスリリースにて公表する予定です。医療情報のデータポータビリティについては様々な議論がある中で、当社は引き続き、個人と病院との新しい対話、新しい医療のカタチの提案を続けていきます。

**NOBORIの実績**
2019年3月31日現在

「NOBORI」契約施設数
**950施設**

「NOBORI」に画像を保管している患者数
**26,122,000人**

「NOBORI」に保存する検査件数
**145,979,000件**

病院・医療機関にも、医師・医療スタッフにも、そして患者・生活者にも、「NOBORI」はみんなに役立つクラウドサービスです。

## アジアの経済発展を支える バンコク駐在員事務所を開設

ASEAN５といわれるインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムとインドでは、各国が積極的に進めるインフラ投資、そして外資企業の新工場稼働などを背景に堅調な経済成長が続いています。

当社では、2013年より販売代理店を通じて、ASEAN地域でコンタクトセンターCRMシステム「Fastシリーズ」の販売を行ってきました。そして経済成長に伴って急速に拡大するCRMシステム需要に対応するため、2018年4月にタイ・バンコクに駐在員事務所を設立し、販売代理店の支援を強化することにしました。

バンコク駐在員事務所では、タイ、インドネシア、マレーシア各国に進出した日系企業に「Fastシリーズ」の導入を進め、最近ではローカル企業にもアプローチを進め、徐々に実績が出てきました。顧客に対して良い受け答えをして満足度を高めるホスピタリティが評価され、「Fastシリーズ」がアジアでも有効だという証明になりました。

コンタクトセンターでは、国内外に限らずSNSを中心としたコミュニケーションが増加しています。特にタイではLINEの利用率が高く、日本のコンタクトセンターのシステムをほぼそのまま導入することができ、基本的な問合せに関しては、AIによるチャットボットを活用した効率化が可能なことから、高い評価を得ています。

これらの実績をベースに、今後はフィリピンなどの周辺国にもサービスを広げていく計画です。

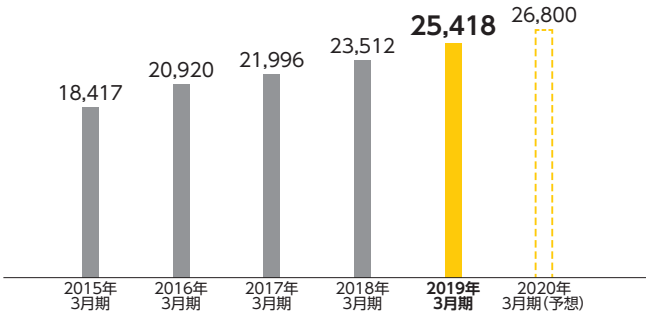
## コード量１億行にも及ぶ車載ソフトウェアの品質を保証するテストツールを提供

当社が事業をスタートさせた当初、ソフトウェアといえば、情報系のコンピューターシステムでした。しかし、今ではあらゆる分野の製品がソフトウェアで制御される時代になりました。特に日本経済を支える自動車産業では、クルマの中に組み込まれる車載ソフトウェアが、アメリカ、ヨーロッパを含め大きなマーケットとなってきました。当社では、このような車載ソフトウェアの品質保証関連の需要に着目し、テストツールの提供を行ってきました。

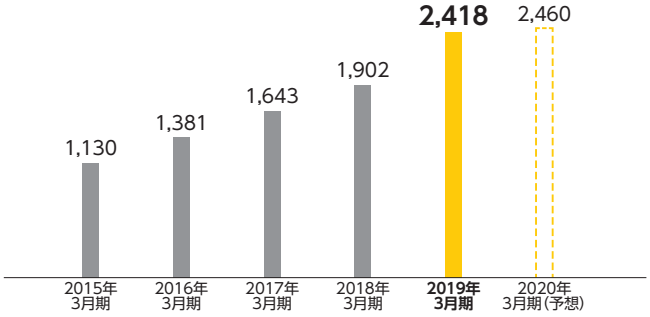
自動車業界では、MISRA（Motor Industry Software Reliability Association）のコーディング規約に準拠することが、車載ソフトウェアを開発する必須条件です。さらに自動車がインターネットに接続されるようになると、セキュリティの観点からの規約が次々に追加されていきます。完成車メーカーから、これらの規約に準拠した部品を納品するように要請された部品メーカーでは、各規約に準拠したテストを行わないと、製品の信頼性が確保できなくなってしまいました。そのため、コード量が1億行にも及ぶ複雑化した車載ソフトウェアの品質保証には、テストツールは欠かすことのできない存在となりつつあります。さらに、近未来に実現を目指す自動運転も視野に入れた車載ソフトウェアは、これまで以上に膨大なコーディングが必要となることは間違いありません。そうした開発競争が世界的に激化する中で、当社が提供するテストツールは、さらに大きな役割を担うキーツールへ進化していくことでしょう。

## 損益の状況／資産の状況

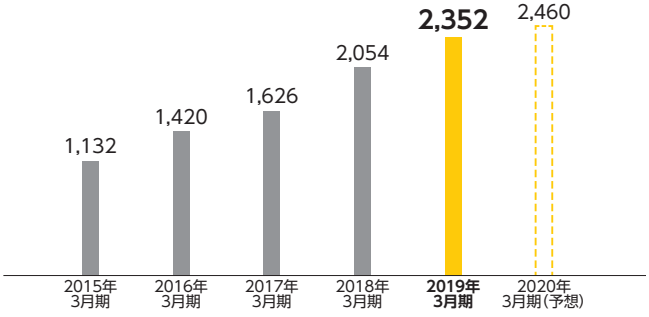
### 売上高（百万円）



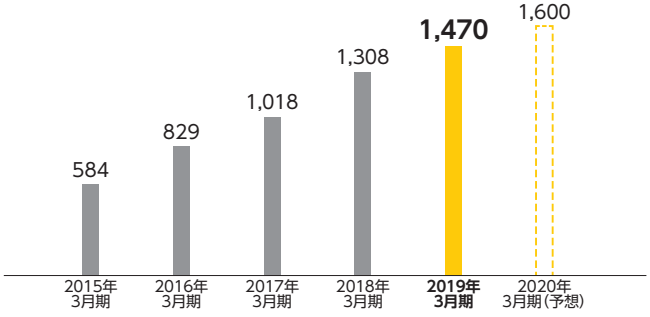

### 営業利益（百万円）



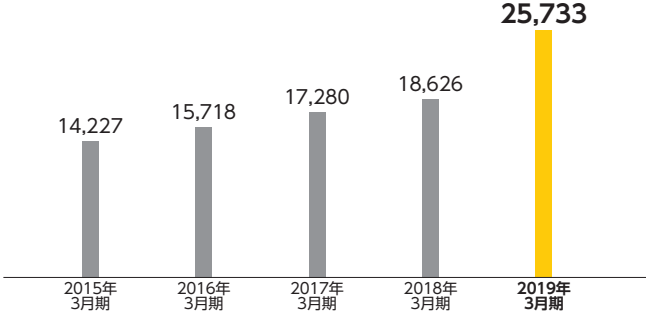

### 経常利益（百万円）



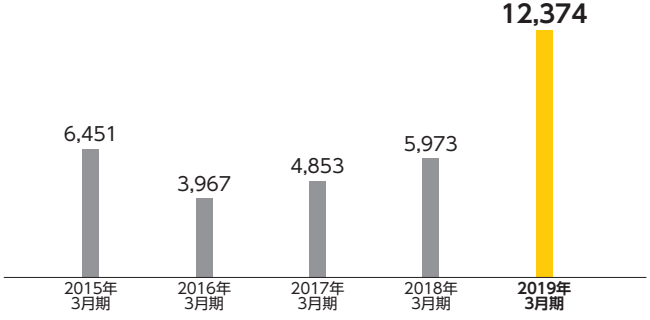

### 親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）




### 総資産（百万円）




### 純資産（百万円）

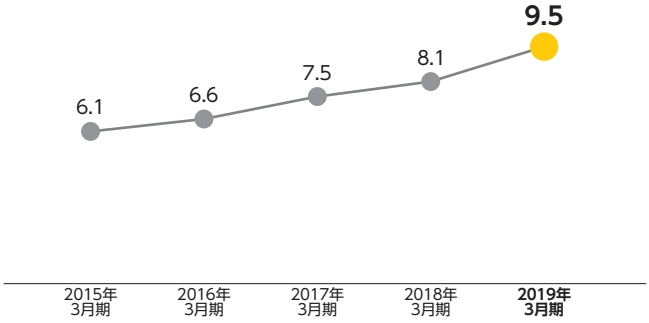



※1　純資産、自己資本比率の減少は2015年8月21日に実施した自己株式取得によるものです。
※2　2017年3月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割が行われたため、それ以前の1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を調整しております。
※3　中期経営計画の計画値は、2018年5月22日公表時点の内容です。

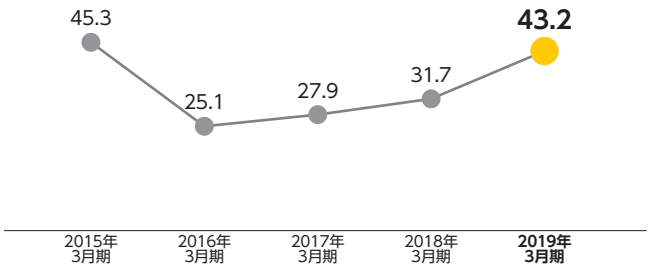
より詳細な財務情報は
https://www.techmatrix.co.jp/ir/library/ テクマト IR 検索

## 収益性・安定性・1株当たりデータ

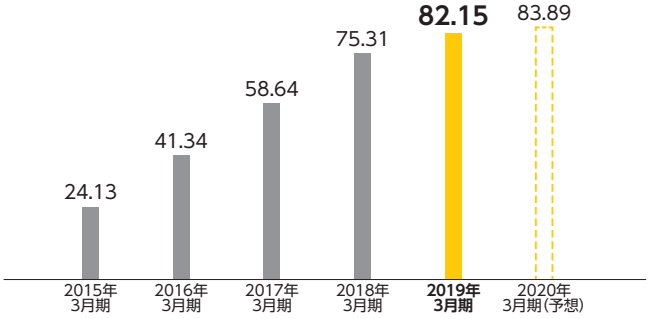
### 売上高営業利益率(%)



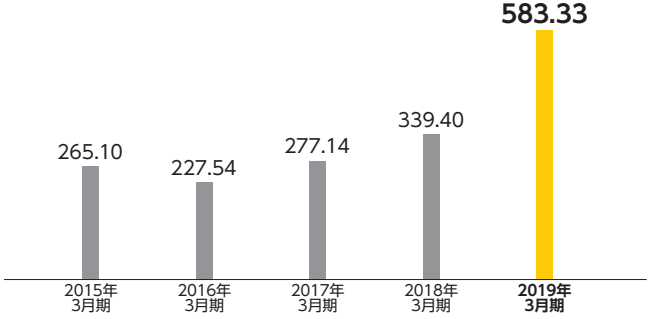

### 自己資本比率(%)




### 1株当たり当期純利益(円)

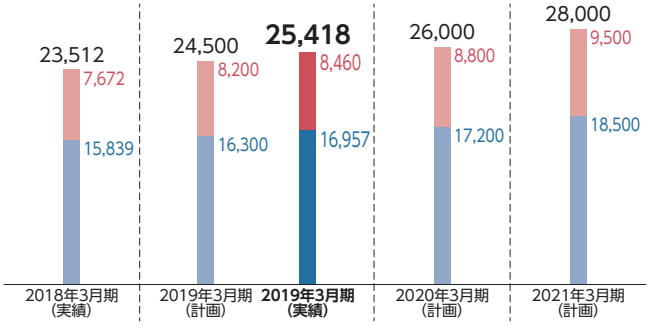



### 1株当たり純資産(円)

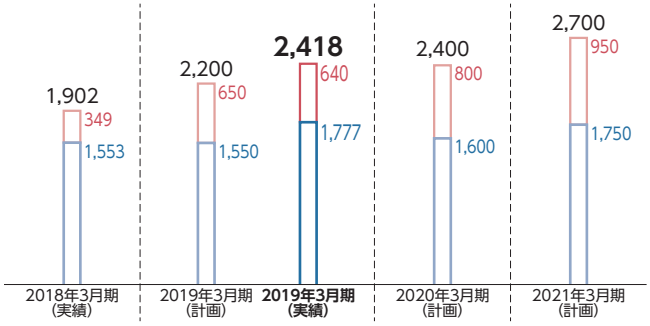



### 中期経営計画の計画値と進捗状況(百万円) ■ 情報基盤事業 ■ アプリケーション・サービス事業

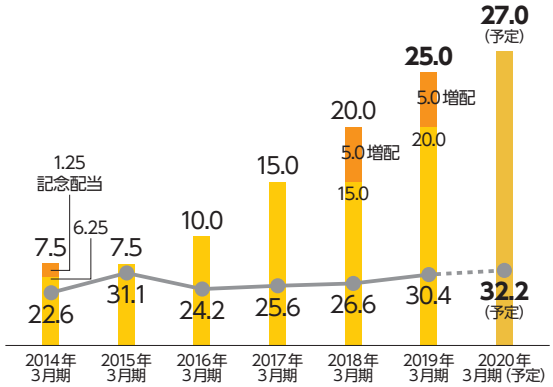
#### 売上高




#### 営業利益



## 1株当たり配当金について




※2017年3月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っています。そのため2014年3月期期首にこれら株式分割が行われたと仮定して、配当金を表示しています。

## 利益配分に関する基本方針

当社は、株主価値の向上の一環として株主に対する利益還元を重要課題と位置付けております。利益配分に関する基本方針は、株主への利益還元と内部留保充実のバランスを総合的に判断し、決定しております。配当政策としては、期末業績における連結での配当性向20%以上を基本方針としております。この方針に基づき、2019年3月期の配当は1株につき23円を予定しておりましたが、当期業績の利益水準をふまえて、2円増配の1株につき25円といたしました。なお、2020年3月期につきましては、2円増配の27円とする予定です。

## 拡充！ 株主優待のご紹介

**対象**

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された500株以上の当社株式を保有する株主様

**優待内容**

| | |
|---|---|
| 500株以上 | 1,500円相当の商品または寄付 |
| 1,000株以上 | 4,000円相当の商品または寄付 |

### 優待品

**500株以上保有する株主様(1,500円相当)**

長崎製法カステーラ・緑茶 詰合せ

横浜本牧亭 ビーフカレー

梅里庵 茶漬・ふりかけ・味付けのり詰合せ

**1,000株以上保有する株主様(4,000円相当)**

松阪牛 すき焼用

伊藤ハム ハム詰合わせ

国産黒毛和牛 ステーキ用

※写真はイメージであり、実際の商品と異なる場合がございますのでご了承ください。

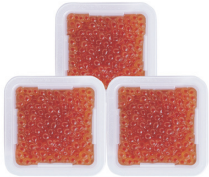
当社は、株主の皆様の日ごろからのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的に、株主優待をご提供しています。

昨年度のお申込みは89.1%と、多くの株主様にご好評をいただいており、今後も継続して実施を予定しております。

北海道 鮭三昧

かりんとう
詰め合わせ

なだ万
プリン詰合わせ



いくら醤油漬け

## IRサイト動画コンテンツのご紹介

当社IRサイトでは、IR資料の掲載だけでなく、以下の通り動画の配信を行っております。当社への皆様のご理解を一層深めていただくため、今後も積極的な情報開示に努めてまいります。ぜひご覧ください。

### 会社紹介映像

当社の歴史や事業内容、最新の取り組みや中期経営計画に基づく成長戦略等について、わかりやすくご紹介しております。

### 決算インタビュー

由利社長とモーニングスター株式会社の朝倉社長との対談という形で、決算の概況をご説明しております。

### 個人投資家説明会

個人投資家の皆様を対象とした会社説明会の模様を、動画にて配信しております。

**それぞれの動画は**
**こちらから**
**ご覧いただけます。**

**https://www.techmatrix.co.jp/ir/techmatrix_movie.html**

## 会社概要

| | |
|---|---|
| 商　　号 | テクマトリックス株式会社<br>（英語名：TECHMATRIX CORPORATION） |
| 設　　立 | 1984年8月30日 |
| 上　　場 | 2005年2月18日 |
| 証券コード | 3762 |
| 資 本 金 | 12億9,812万円 |
| 従 業 員 数 | 1,086名（連結） |
| 本社所在地 | 〒108-8588 東京都港区三田3-11-24<br>国際興業三田第2ビル<br>TEL：03(4405)7800（代表）<br>FAX：03(6436)3500 |

## 役員の状況（2019年6月21日現在）

| | |
|---|---|
| 代表取締役社長 | 由利　孝 |
| 取締役上席執行役員 | 依田　佳久 |
| 取締役上席執行役員 | 矢井　隆晴 |
| 取締役執行役員 | 鈴木　猛司 |
| 社外取締役 | 安武　弘晃 |
| 社外取締役（常勤監査等委員） | 佐々木英之 |
| 社外取締役（監査等委員） | 高山　健 |
| 社外取締役（監査等委員） | 三浦　亮太 |
| 社外取締役（監査等委員） | 杉原　章郎 |

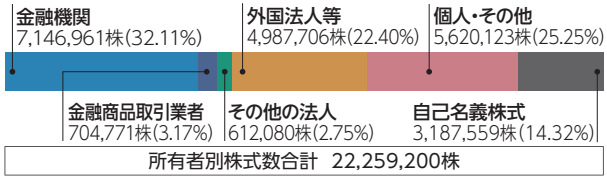
## 株式の状況

| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 82,944,000株 |
| 発行済株式の総数 | 22,259,200株 |
| 株主数 | 5,543名 |

## 大株主の状況

| 株主名 | 所有株式数（株） | 持株比率（%） |
|---|---|---|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 3,993,600 | 17.94 |
| テクマトリックス株式会社 | 3,187,559 | 14.32 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 1,923,700 | 8.64 |
| 徳山　教助 | 714,100 | 3.21 |
| BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS | 660,000 | 2.97 |
| テクマトリックス従業員持株会 | 469,200 | 2.11 |
| GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL | 411,554 | 1.85 |
| BNYMSANV RE BNYMSANVDUB RE YUKI ASIA | 409,100 | 1.84 |
| GOVERNMENT OF NORWAY | 377,100 | 1.69 |
| KBL EPB S.A. 107704 | 344,700 | 1.55 |

## 株式分布状況




## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会　3月31日<br>期末配当金　3月31日<br>株主優待　9月30日 |
| 株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1－1　電話 0120-232-711<br>郵送先 〒137－8081 新東京郵便局私書箱第29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第一部 |
| 公告の方法 | 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告による事ができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。<br>公告掲載URL<br>https://www.techmatrix.co.jp/ |

**テクマトリックス株式会社**　証券コード：3762
〒108-8588 東京都港区三田3-11-24 国際興業三田第2ビル
TEL：03(4405)7800（代表）FAX：03(6436)3500

UD FONT　VEGETABLE OIL INK　FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915